



Libreria Editrice Vaticana, Città del Vaticano の転載許可済  
©1981 精進教育促進協会(芦屋三三・三三三・三三三) 芦屋市船戸町12-6

# 教皇様の叢

## 信仰と神学

真理に反対したり、真理を恐れたりする理由はありません。真理と全ての真実なものは、大いなる善であり、喜んで愛をもって捜し求めるべきです。科学もまた真実なものへ至る道の一つです。神がお与えになった理性は、その本質から、誤りにはなく真理の認識へと秩序づけられており、そういう働きのおかげで発展するものです。

これは、技術的、機能的な面を中心にした科学にもあてはまる点です。知識を単に成功への発端門としてのみ考えるなら、それはあまりにもせまい考えです。それに対して、成功を、知識がある証拠であると言うならば、正しいでしょう。技術の分野を真理から全くかけ離れ独立した分野であると考えるわけにはいきません。また、この分野を全く無意味な世界であるとも考えられないのです。人間の生活条件はずいぶん良くなったことは否定できません。他方、技術文明の向上によって引き起こされた数々の難題があるからと言って、科学技術の進歩がもたらす数多くのよいものを等閑に付すことはできないのです。

我々の技術や科学文明を神の創造なき世界と相反するかのように見える理由など全くない。技術的知識は悪用されることもあり善用されることもあるのは事実です。毒の働きについて研究した者はその知識を生命救助のために殺害のためにも活用することができるといふ。しかしこの善悪を見分ける基準は何であるかを知っていなければなりません。世界を変えようと努める科学技術は、個人の人間と人類全体に役立つときのみ良いと考えられるのです。

まだまだ多くの人々が非常に貧しく、非人間的な生き方を強いられる現在、充分な進歩を遂げたということはできません。このような状態は、科学的技術的知識の助けによってもっと改善されるはずなのです。私たちの前途には、仕事が増え山積しており、知らぬ顔をするなどできません。それらをやりとげることが、困っている人を助けるのと同じように、隣人に兄弟として仕えることです。隣人に兄弟として仕えるのは、人々の中に精神的存在としての人格の尊厳を認めるから

です。信仰によれば、私たちの特徴は神の似姿であるという事実です。そして、キリスト教の聖伝はさらに、人間は自分自身のために存在するものであり、他の目的のための手段ではない、と教えます。ですから、人間の持つ個人的尊厳こそは、科学技術的知識を適用するに当って、判断の基準となるべき点なのです。特に人間自身がますます技術あるいは研究の対象として取り扱われるようなとき、これは極めて大切な点です。人間も自然界に属するわけですから、それらのことが不法であるとかないとか言うのではありません。けれども、確かにこの点に重大な危険や問題がひそんでいます。というのも、技術文明が世界的に進展している中で、今日、すでに多くの国が全く新しい難儀に直面しているからです。これらの危機や問題は数年来国際的論議の対象となっており、そして近代科学が根本的質問を引き受け、科学的方法で解決を図るための力を尽すということは、とりもなおさず近代科学の深い責任感をあらわしているのです。(…)

人間の個人的尊厳とその意味を評価したいと思っても信仰だけではできません。自然の理性の力が必要なのです。理性によって人は真実と虚偽、善と悪を見分け、人間存在の基本条件としての自由を認めることができるからです。(…)

科学と信仰との関係という昔からの問題は近代科学の進展によってもまだ解決されていません。それどころか、科学にどっぷり浸っているような世界にあって、増々この問題解決が重要になってきました。

信仰に関する学問を今のべたような意味で理性の働きの面から考えることにもちゅうちょしません。教会は自立的な神学研究を望んでいます。それは、教会の教導権とは別であり、信仰の真理と神の民に役立つために教導職に委ねられています。もちろん、

両者の間に、緊張関係や時には衝突が起こることもあるでしょう。教会と科学の間にも同じことが起こり得ます。なぜそういうことが起こるかと言え、それは人間理性の有する限界のためであり、それゆえ誤る可能性があるのです。しかしながら常に、真理に向かう理性の能力を基礎にして必ず解決できるという希望はもてます。

過去の近代科学の信奉者達は、理性と自由、進歩というモットーを掲げて教会に逆らっていました。科学の意義が危機にさらされ、科学の自由が脅かされ、進歩に対する疑問が持ち上っている今日、前戦は変わってしまいました。現在、科学の弁護に立つのは、教会なのです。□理性と科学の弁護。理性には真理に至る力があること。

□科学の自由の弁護。この自由のおかげで科学は、人間的・人格的善としての尊厳を保持します。

□人類社会に寄与する進歩を弁護する。進歩は人間の生活と尊厳を保障するために必要であるからです。

このような課題をもつ教会とキリスト信者は現代を二分する論争の真中に立たされています。人間存在の意義、行為の規範、より大きな希望への展望など、早急に答えを要する疑問を解決するには、真理を求め人間の信仰の力と科学思想がふたたび一つになるほかはないのです。紀元二千年代の基となる新しいヒューマニズムの追求が成功するのは、科学の知識が、神の賜物として啓示された真理と生き生きとしたつながりをもつときだけであると考えられます。人間理性は知識を得るため、また世界を変えるためのすばらしい道具なのです。しかしながら、理性が、人間の有する大きな可能性をすべて実現するためには、まずキリストにおいて人間になられた永遠の真理に開かれていなければなりません。

(一九八〇・十一月・十五)

# 高齢者は教会の宝(前)

私は高齢者のみなさんに深い愛と尊敬の心をあらわすと同時に、多くの方々にも同じことをして下さるようお願いいたします。老年とは人生の冠のようなもの、収穫の時だと言えます。今までに学び、経験したこと、今まで行ない、やりとげたこと、今まで苦しみ、耐えてきたことを取り入れる時なのです。偉大な交響楽のフィナーレのように、生涯のすべての旋律が組み合わさって力強く調和のとれた楽の音を奏でます。そしてこの調和から知恵が生まれます。若きサロモン王が祈り求め、権力や富、美貌や健康よりも強く願ったもの、旧約聖書の生活規則に書かれてある知恵のことなのです。「老人に知恵があり、この世の指導者に熟慮と諫めとがあるのはいいことだ。老人の栄冠は豊かな経験であり、その誇りは主への畏れである。」(集会の書25・5以下)(…)

知恵があると、物事を少し離れたところから見るができます。しかし、遠ざかってこの世を上から見下すではありません。物事を、蔑視するのではなく、越えるのです。この世を神の目と神の心で見えるようになります。自分の能力の限界や失望、怠り、罪を含む過去をすべて神と共に受け入れることができるようになります。「神を愛する人々、すなわちみ旨によって召しだされた人々のためには、神がすべてをその善に役立たせてくださることを、私たちは知っている」(ローマ8・28) からののです。

知恵のこの和解放的な力から、堅忍、理解、そして今の時代に大変貴重な特徴であるユーモアのセンスを引き出すことができます。

みなさん方がよくご存知のように、創造主がお与えになるこの貴重な人生の取り入れは、戦わなければもち続けていくことはできません。注意深く警戒を怠らず、自分をコントロールしなければなりませんし、時には、確たる決意で戦うことも必要です。さもないと、取り入れは危険にさらされてしまいます。怠り心や気まま、浅はかで傲慢な態度、苦々しい思いなどによっても、簡単にむしばまれ、食いつくされてしまいます。でもがっかりしないでください。主の恩寵をうけて、もう一度始めればよいのです。主がお与えになる力の源、つまり命のパンとゆるしの秘跡、また説教や霊的読書、霊的な事柄についての話し合いなどを活用することです。(…)

## 高齢期を迎える司祭

みなさん方と同年代の司祭の方々にお話したいと思えます。司祭職における親愛なる兄弟のみなさん、主のぶどう園で生涯かけて働いてくださったことに対して教会はほんとうに心から感謝しております。もう少し若い司祭方には、ヨハネの次のことはを差し上げましょう。「ほかの人が労苦し、あなたたちはその労苦の実を受けつぐのです」(ヨハネ4・38) 司祭のみなさん、みなさんの司祭としての祈りで、教会の必要とすることがらをお願いしていただきたい。「私の若さをよろこびで満たす神」(詩篇43・4) にお願ひして欲しいのです。

## 教会の宝

高齢者のみなさん、みなさん方は教会の宝です。この世の祝福なのです。何度も若い親たちを安心させなければならぬことでしょう。いかに巧みに家族や国の歴史や民話を若い人たちにお伝えになることでしょう。みなさん方は本当に上手に若者たちを信仰の世界に導き入れることもできるのです。成人したばかりの若者は、悩みごとのあるとき、親の世代の人々のところよりも、みなさん方のごころにくるでしょう。困難に見舞われる子供たちにとってみなさん方こそ、最も貴い心の

■「神を愛する人々のためには、神が全てを善に役立たせてくださる。」

■主がお与えになる力の源、つまり命のパンとゆるしの秘跡、説教や霊的読書、霊的な事柄についての語り合いを活用してください。

支えとすることが出来ます。色々な会合や団体に参加し良い助言を与え、教会や公共の諸活動に協力することもできるのです。

若者のバイタリティーと働き盛りの中堅層の力にばかり夢中になり、頼れるものにはあまりにも頼りすぎる社会にあっては、どうしてもみなさん方高齢者の働きによって補うべきことがあるのです。以前に若く力強かった人々の勤勉な働きのおかげで、今の世界があるというところ、また、今活躍中の人々もいざれば若者たちに仕事を譲るときがくることを教

えてくださることが出来るのです。みなさん方を見てみると、生きるとは、お金をもうけたり使ったりすることだけではないことがよくわかります。外的な活動において何か内的なもの、過ぎゆくものなだけで永遠に続く何かか熟していくべきであることもわかってきます。聖パウロによれば、「私たち外の人はおとろえても、内の人は日々新たに」(コリント前4・16) ならなければなりません。高齢者はほんとうに尊敬に値します。それは次のように聖書にもよくあらわれているのです。たとえば、アブラハムとサラ、聖家族に引き合わされたシメオンとアナ、また、聖書では司祭のことを長老と呼び、神の礼拝のためには二十四名の長老が選ばれます。さらに、神はご自分のことを「日の老いた者」と呼んでおられます。

## 高齢と共に訪れる重荷をになう

これ以上に高齢者の尊厳を崇高にうたうことができるでしょうか。ところでみなさん、私が、年をとるといふことのもう一つの面についてお話ししないとすれば、もし老年の誉れだけを話し、慰めを与えることができないとすれば、がっかりされるでしょう。

(教皇さまは十一月頃の様子について話しておられる) 私たちは木々が荘厳と言えるほど輝く収穫の季節にいるわけですが、この季節はまた、枝が葉をおとし、葉はくちははてる時でもあります。柔かく包み込むような光に恵まれますが、同時に、湿ったもの淋しい霧の時でもあります。同じように、老年も、力強く最後の和音が鳴り響くときであり、生涯の和解放的な総括の時であるだけでなく、消えゆくときでもあります。周囲が見慣れないものと映るようになり、生きることも重荷と感じられ、体も痛んでいきます。そこで私は「自分の尊厳を自覚してください」という呼びかけに加えて次のように申し上げたいと思いま

# 説教・講話・書簡等の抄訳

す。「自分の重荷を受け入れてください。」(次いで、高齢者の経験する色々な苦しみや変化が述べられる。)

### 苦しみと救い

私、教皇は何と申し上げるべきなのでしょう。どのようによれば慰めを与えることができるでしょうか。あまり簡単に考えたくありません。高齢者の心配事、弱さや病気、不自由と孤独などを軽く考えるわけにはいかないのです。しかし、これらを和解放的な光に照

### 若者たちへ

純潔には大きなねうちがあります。(……) 完全なキリスト教的生活をみつめながら、みなさんは家族の役割について思いを巡らせ、そのための良い準備をしなければなりません。この準備は、人々の善のため、また世界がより人間的になるための努力の基礎となるべきなのです。みなさんはまた、よく耳を澄まして、より高いところへ導いてくれる霊感に聴きいることができなければなりません。神のお召しがあれば、人々の役に立つよう、天の王国を実現させるため自分をささげなければなりません。そして預言者イザヤの、「神なる主は私の耳を開かれ、私はそれに抵抗せず、退かなかった(50・5)」を自分の生き方としなければなりません。これについてみなさんにおわかり願いたいのは次のようなことです。神は、すべてを投げうって救いのみわざに協力する若者を望んでおられる。

したいのです。「私たちのために血の汗を流し、私たちのために柱のもとでむち打たれ、私たちのために茨の冠をかむせられた」主の光に照して考えてみたいと思うのです。高齢という試みのとき、主は痛みを共にしてください。さる伴侶であり、みなさん方は主の十字架の道行の伴侶です。一滴の涙も一人っきりで流すことはなく、一滴の汗も無駄に流すことはありません。主はご自分の苦しんで人々の苦しみをあがなわれました。みなさん方はご自分の苦しみで、主の救いのみわざに協力する

にキリストがみなさんの道であり、真理であり、生命でありますように。教皇ヨハネ二十三世は次のようにおっしゃっていました。「老齢と弱さは、理想が心に燃えず、意志が働かなくなる時、とくに迫ってくる。人生とは若々しい夢の実現である。みなさんはそれぞれ自分の夢を実現させねばならない。」(……) みなさん、復活したキリストは私たちを救いに導き、新しい人間性、新しい世界に導いてくださいます。このすばらしい呼びかけに応えて、マリアさまにお願いしましょう。聖母のつきそいとご保護を得て、地上の国々が正義と兄弟愛と平和において進歩するよう私たちの努力の支えになってください、と。(一九八一・四・二十六)

### 召し出しを考える若人へ

よく祈り、よく黙想して、将来の進路を決めてください。主のみ声が心の奥底で聞こえたならば、すぐに耳を傾けてください。「今日、主の声を聞けば、心をかたくにするな。」(詩篇95・7-8) あなたは教育を受けている最中で、主のみ声に耳をかたむける時にあた

## 聖母のみたま

を受けているのに、その呼びかけの主「ノー」と答えるようなことはできるでしょうか。自分の道を誤って選ぶようにはゆるされません。ですからみなさん、一所懸命に祈って、正しい選択のできるよう光を求めてください。ひとたび決心がついたあかつきには、さらによく祈り、堅忍する力を求め、つねに、「すべて主に委ねられるようそのみ旨に従って行い、すべての善業の実を結び、いよいよ深く神を知って」(コロサイ1・10) ください。(一九八一・四・二十六)

のです。(コロサイ1・24参照) みなさん方の苦しみを主の抱擁と考えなさい。苦しみを御父から受ける祝福と御父に感謝してください。御父は、測り知れないけれども疑う余地のない知恵と愛をもって、この苦しみを御父、みなさん方を完全にしてください。泥金から金を取りだすのは何の用です。(ペトロ前1・7参照) ぶどうがぶどう酒に変わるのは圧搾機を通じてからなのです。神だけが御父になるこのような精神をもつなら、人々が怠りや不注意、軽率から私た

ちに苦しみを与えたとしても、より簡単に理解してあげることができません。私たちが苦しむことを知っているながらも、あるいは、知っているからこそわざと苦しみを与える人々を赦すこともできるようになります。その人たちも、私たちがどんなに苦しむかはわかっていないのでしょ。父よ、彼らをおゆるしください。彼らは何をしているかを知らないからです。(ルカ23・34) これは私たちのためにも言われたことばです。このことばだけが私たちの救いなのです。(一九八〇・十一月九日)

### 病にふす人々へ

時には生きていることが無意味に思えたり、重荷になることもあるでしょうが、決してそんなことはないことを知ってください。カルワリオへの犠牲性に向ってイエズスがたどられた道を注意深く考えると、苦しみの道は無駄でないことがわかります。第一、イエズスが無意味なことをなさるはずはないのです。私たちがふたたび天国への望みをもつことのできるように、イエズスが十字架の道をお選びになったのであれば、それはつまり、十字架の道と病に伏す人々の生活、それに福音に従う人々の道が、他のいかなる道よりも、神の慈愛と救いの宝を受けることを示しているのです。病人の世話をしてくださるみなさんにお願います。病床にふす人々や助けを要する人々に仕えることによって、キリストに仕えた聖人たちの英雄的な模範を心に留めておいてください。聖人たちは、徳のなかでも最も高い徳、愛のために生命をささげ、無数の功德で飾られた人なのです。願わくは、すべての人々が信仰と希望と愛に成長なさいますように。(一九八一・五・六)

# 不変の教え

《キリストの愛ほど強いものはない》

みなさん方はそれぞれ過去の経験を語るためにこのモットーを選ばれたのではありませぬ。みなさんは、私たちがひとしくすべきこと、つまり未来を見て、直面する仕事を垣間見られたのです。まったく正しいことであると思います。

無関心、投げ出し、迷い、人生への恐れ、自暴的な行ない、などを前にしても、片寄った見方をせずに落ち着いて福音のメッセージを告げるには、初めに言ったキリストの強い愛への信仰があつてはじめて出来ることです。私たちが、はつきりと、簡潔に福音を告げ、福音の生き方を自分自身の生き方で証明するならば、それに耳を傾ける人々、特に若い人々が出て来るのです。言葉とお手本で、キリストに従うならば、救いを得ることができると宣言する場をどんどん作らねばなりません。問題がなくなるには事実ですが、新たに歩み始めるための勇気が湧いてくるのも確かでしょう。

あらゆる努力を傾けてください。今までの成果に満足してはいけません。福音がこの世の中に入り込んで、パン種の働きをし、またキリストの愛がここでも力を発揮するには、新たな発展をとり、新たな状況を作りあげて行く必要があるのです。キリスト教は、あなたの方の国で、どういった存在なのでしょう。例えば今日の文学、演劇、芸術の中ではどうでしょうか。ラジオ、テレビ、新聞の中で、教会とキリスト信者はどのような存在でしょうか。職場や大都市で人々と生活をともにするにあたり、キリスト者としての模範を示しているのでしょうか。一つの世界の中の種々の民族と文化の連帯性について、みなさんほどの程度の理解を示されるでしょうか。エネルギー問題、環境問題といったような重要な問題が、どの程度、真剣にとり上げられているのでしょうか。みなさんがそういった問題

を易々と見逃されることのないのを承知して私はみなさん方を元気づけたく思います。キリストの愛より強い愛はないのです。

(一九八〇・十一月・十八)

しかし、福音はいつも人間によることで受け入れられるわけではありません。つねに誰にでも気にいられるとはかぎらないのです。うつろな飾りごとで福音を偽造することも出来ないし、その中には個人的な利益や、名声、名誉など、かけらほども見出すことはできないからです。聞く人々にとって、福音は「厳しい言葉」に聞こえるでしょうし、福音を告げる人々は「さからいのしるし」になることでしょう。つまり、この神の真理、この良き知らせは、自分のうちに強い緊張関係を

## 福音を作り変えてはならない

抱え持っているのです。その中には実に、神から来るものと現世から来るものとの間の対立関係が凝縮されているのです。キリストは次のようにおっしゃいました。「あなたたちがこの世のものなら、この世は自分のものを愛するだろう。しかしあなたたちはこの世のものではない。私があなたたちをえらんで、この世から取り去ったのである。だからこの世はあなたたちを憎んでいる。」(ヨハネ15・19) また、このようにも言っておられます。「この世があなたたちを憎むとしても、あなたたちより先に私を憎んだということを忘れてはならない。」(ヨハネ15・8) この良き知らせ、福音の中心には、十字架が印されているのです。」

聖人に、使徒に、おなりなさい

ボニファチウス(ドイツの保護の聖人)の働きによって信仰のみが育つたのではなく、信仰の実りであり証明である文化も花開いたのです。信仰と人々への奉仕に務めることの中にみなさん方は決った任務を持っています。人々が、あるいは若者達が、人生の意味について情熱を持って問いかけたならば、みなさん方が説得力のある明解な答を与えておやりなさい。万一、生きることにの権利、真に人間的な文化全体の倫理基準が脅かされているならば、みなさんが人間の権利と尊厳を守ってください。教育や形成を受けても、人々が自分について得るイメージが機能人間や無意味人

間であるとするならば、人間は神の似姿であるということを出発点とする教育を実現するために働いてください。一方で消費と快楽が、また、一方では成長にも限度があることを知って、苦しみが社会感情となってしまうならば、キリストがお与えになる希望を人々に証するような、人間生活の条件と新しい生活様式をみなさんが発展させてください。

もし、人類が進歩したにもかかわらず、差別の中に生きている人々や全体的発展の実りの恩恵に浴していない人々の数が増しているならば、あらゆる人々の権利と幸福のためにみなさんが働いてください。世界中を擁護する社会秩序、自由、正義、そして平和を求め

勇敢な戦士になって欲しいのです。聖人におなりなさい。みなさんの生活を聖化して、内部にただお一人聖である御方の現存を保ち続けなさい。福音書の変らぬ性格を自分の人生の二本として受け入れてのみ、人々を引きつけることが出来るのです。実社会での(キリスト者としての)証言をもとにして、世界の聖化に努めなさい。

あらゆるものを抱擁し、すべてに向って自分を開くカトリック信者とおなりなさい。ちょうどボニファチウスが一生を通じて、心の中で、イギリス、ドイツ、ローマを一つに結びつけたように。自分の問題や心配事に閉じこもってしまつてはいけません。人類すべてのために、みなさん方の献身が必要なのです。おしまいに一つ、教皇、司教と心をひとつにして、信仰の証人、使徒になってくださるようお願いいたします。

(一九八〇・十一月・十八 フルダ大聖堂で)

仕事と使徒職を結びつけなさい

タルソのパウロは自分の使命と使徒職を仕事、それも手仕事に結びつけました。キリストが救いの使命をナザレトの仕事場に結びつけたように、パウロは、使徒職をその手仕事と結びつけたのです。これは、みなさん方の多く、いや、すべてに対しての呼びかけ、キリスト教の、仕事の世界全体に対しての呼びかけであります。仕事を救いという面から眺め、仕事と使徒職を一つに結びつけなさい。今日の教会はとくに、この仕事の使徒職、働く人々の間での使徒職を必要としています。この仕事という人生の大きな部分を福音の光で照し出さなければならぬからです。神の愛と真実の光は、人間の仕事に輝きを与えるはずですが、この光が、人間の不正、搾取、嫌悪、卑屈さの影で消されてしまうようなことがあつてはならないのです。

(一九八一年十一月十六日 労働者に向けて)

『教皇様の声』ヨハネ・パウロ二世教皇の説教・書簡・講話などを解説なしにそのまま伝える月刊紙 毎月 十日発行 定価 一部六十円送料六十円 一年予約七百二十四円送料七百二十四円 二十部以上の一括購入なら送料不要

郵便振替 神戸 072393